

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ネトラレン

Vol.6



LOSER

指揮官♥
今回の報告書です
ご確認ください♥

【ネトーラレーン Vol.6】



♥ゲッツ・フォン
・ベルリヒンゲン♥

鉄血貴族令嬢
特濃フェロモンチンポに陥落♥



♥クラスミイ
・カフカス♥

ご主人様との
ラブラブ精神訓練♥



♥キアサージ
&
カンザス♥

巨根主義♥
ヤリマン化改造計画



♥シェルブール♥

指揮官たちとの
結果見え見えチン比べ♥



♥ハウデン・リーウ♥

上官様のご子息と
ヒミツの遊び♥



♥フランクリン♥

フランクリンと
元指揮官くんの
寝取られマゾ日誌



♥アウグスト
・フォン・
パーセヴァル♥

堕ちた魔女との
寝取られマゾ奴隷契約♥



♥ノースカロライナ
&
ワシントン♥

寝取られマゾ煽り
ノーハンド射精♥



♥フリッツ・ルメイ♥

指揮官用VIPルームで
立場わからせ浮気エッチ♥



♥ダンカン♥

裏切者の卑劣な罠
エージェント堕ちる♥

「どなたですの！あなたッ!?」

「このお部屋は、私と
指揮官閣下の愛の巣…」

「あなたのような下賤な者が
踏み入れてよい場ではありません」

「もうすぐ指揮官閣下が
いらっしゃるのというのに…」

「今すぐ立ち去りなさい！
消し炭になりたいくて？」

「おお、怖い怖い…」

「流石は鉄血の貴族令嬢

残念だが、ここに

愛しの指揮官君が来ることはない

それに…」

コレを前にしても
同じことが言えるかな

ズ
ッ

「なッ!?」

いきなりなんて
汚らしいものを…!!」

「……ッ!?
んう…♡この香り…
頭が…ぼーっとして…♡」

「どうしてですの…?
こんなに汚らわしい汚物なのに…
なのに…目が離せない…♡」

「んう…
んう…」

この肉棒の
特製フェロモンは
お気に召したようだね♡

どんなに気高い艦でも
メス便器艦に墮とせる代物さ♡

はー♡

はー♡

はー♡

「抗わないと…♡
この身は指揮官閣下の…♡」

「こんな立派な…おチンポ様なんかにい…♡」

ひとたび、このチンポを前にしてしまえば
どんなに敵意があっても、身を捧げなくなるのさ♡
そして精液を、口で、マンコで、受け入れる度に
私が愛おしくてたまらなくなるのさ♡

これから、じっくりと…
私のモノに染め上げてあげようね…♡

「ごきげんよう…♡
元♡指揮官閣下♡」

「全てを失ってしまったというのに
私の姿を見るなりそんなに情けなく、
粗チンを勃起させてるなんて…」

「本当にどうしようもない
寝取られ上手なマゾ男ですわ♡」

「私はあなたのことなんて
もうどうでもよいのですけれど…♡」

「ご主人様がお楽しみのスパイスとして
使ってくださいることに感謝なさい♡」

「その情けないゴミチンポザーメンが、
私の身体に触れるなんて…
思うだけで寒気がしますの」

「このガラスの向こうから、猿みたいに
シコリ散らすのがお似合いですわ♡」

「私はこちら側で、ご主人様の気が済むまで
おチンポ様にハメさせて頂きますから♡」



ちんぽ

タラ—…♡



「オオオオオオウホオ♥♥♥
イグイグイグウ♥♥♥」

「極太おチンポおツ♥
最ッ高ですわあ♥♥♥」

オホッ

オホッ

オホッ

グン

グン

「んぶう♥もつと私を深く
愛してくださいまし♥」

「あんな劣等雑魚雄のおチンポと
愛し合ってしまった、あの忌まわしき過去…
強者のザーメンで真ッ白に塗りつぶしてください♥
全部忘れたいです♥♥」

「おっほお♥またイクッ♥
ガチアクメくるう♥真ッ白になるう♥
ご主人様あん♥んほおお♥♥」

グン

グン

キアサージ

あの二隻の
改造計画の進捗は
どうなっている？

順調に進んでおります

肉体、精神ともに
改造率60%を超えました

あゝ

ゴゴゴゴ

ゴゴ

ゴゴゴゴ

ゴゴ

ズボズボ

うあゝ

グググググ

ゴゴ

ゴゴ

ゴゴ

カンザス



評価完了...♡
雌を支配するURチンポ♡

早く挿入してほしい♡

ククク...
いい具合に仕上がって
いるじゃないか

たっぷりと主人の味を
教え込んでやるッ♡

オオッ

ずいっ

ずいっ

んぶう♡
早くチンポエネルギー
補給させてほしい♡

高級全自動オナホが
手に入ったわ♡

ズキッ

ズキッ

ズキッ

ちゅっ

キョッ

ブリン

ビュッ

IP

ジュン

ズン

IP

オオホッ
オオホッ
オオホッ

ビュッ



んっ♡
指揮官の評価を
更新んう♡

はぁ♡

はぁ♡

デカチンと
やりまくってえ♡

寝るの最っ高ッ♡♡

はぁ♡

【最愛の指揮官】からあ♡
【粗チンゴミ指揮官】にい
変更完了ッ♡♡

これからはあ♡
ご主人様たちの
全自動オナホとして
やっていくから♡

さよならだ♡
指揮官♡

「あら指揮官♥どうしてここの森の入口に？
私はこの子に自然を感じてもらおうと思って」

「一緒に来たいの？ダメよ指揮官♥
これから上官様と会議でしょう…？」

「上官様のご子息の面倒は私がしっかり
見てるから安心してちょうだい♥」

「そーだそーだっ！オッサン！
サボってないでちゃんとしごとしろよなーっ！
でないとパパに言いつけちゃうぞ！」

「ほら♥私は大丈夫だから♥
早く行ってらっしゃいっ♥」

ハウデン・リーウ

むいっ





ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン
ズン
ズン

ズン

ズン

「おおおん♡

そこパンパンツ♡

しちゃだめえ♡♡」

「弱点速攻で

見抜かれちゃったあん♡

子供なのにセックス

うますぎよお♡」

どーお？
ハウデンお姉ちゃん♡
ぼくのちんちんすごいでしょ♡

「うん♡とーっても♡
気持ちよかったわ♡」

ほんとお？
あのオッサンより？

「本当よ♡指揮官なんかの
子供チンポなんかよりい♡
ぼく君のおチンポのほうが
ずうーっとかっこよくて大人よ♡」

きめたっ！ハウデンお姉ちゃんは
ぼくのものにするっ！
きょうからおうちにもってく！！

「ふふふ♡うれしい♡それじゃあ
お父さんをお願いしないとね…♡」

「フフ♥相変わらず粗末で醜い肉棒ね♥
こんな雑魚オスを使い魔として契約していた
なんて思うと鳥肌が立つわ…♥」

「喜びなさい♥お前と新しい契約を結んであげる♥
【寝取られマゾ奴隷】…の契約よ♥」

「魔女である私と、それを支配する
御主人様との本気交尾を見ながら
情けなくマゾ射精したいのではありませんか？」

「マゾ射精のために全てを捧げる…♥
無能チンポのお前に、お似合いの契約だと思うわ♥」

「契約はお前が寝取られマゾ射精をした瞬間に成立するわ♥」

「当然オナニーの手伝いなんてしてあげないわ♥
汚いもの♥そこで勝手にチンポしごいていなさい♥」



「おおお…っ♡
奥までくるう♡♡」

「ふふっ♡ホントにシコってる♡
もう救いようがないマゾね♡」

ズン♡
ズン♡
ズン♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ

オオオオ♡
オオオオ♡
オオオオ♡

ズン♡
ズン♡

「お♡おっ♡あん♡フーッ♡

御主人様のチンポっ♡凄いつ♡凄いわ♡♡」

「魔女と使い魔との契約を一撃で打ち砕いた
強者チンポお♡もうコレしかありえないわ♡」

「もっとハメて♡突いて♡魔女の秘所を
御主人様のザーメンで染め上げて♡」

フリッツ・ルメイ

ビクッ

毎度、反抗的な態度で
チンポイラつかせやがって♡
どうせすぐ自分から腰振って
イキまくるくせによお♡

「ジボツ♡シン♡じゆるう…♡
そんなことは…ない♡」
「貴様のちんぽなどお…ん♡
取るに足らんう…♡」

ルメイちゃん♡来ちゃったよ♡

「…ッ!? 貴様…母港には来るなど言っただろう!」

あれれ? そんな態度でいいのかなあ?
大事な指揮官君のこと、どうでもよくなっちゃった?

「うぐ…何が目的…でしょうか?」

やることは一つでしょ♡
そのVIPルームってどこでいっか♡

「そこは指揮官の為に用意した…」

んなことどうでもいいから♡
さっさとしゃぶれよッ♡

ちゅる〜♡

パッパッ

パッパッ

パッパッ

パッパッ

パッパッ

パッパッ

必死に腰振っちゃって♡
もう完全に堕ち切ってんじゃん♡

「フーッ♡フーッ♡…ンオ♡
お、堕ちてないい…♡これはあ…♡
指揮官を護るためだからあ…♡」

「こんな凶悪チンポおっ♡どうってことはない♡
いくら指揮官が劣等雑魚チンポだからって♡
お前のようなクズにい♡堕ちるわけないッ♡♡」

ふーん…それじゃあ次からは、別の雌で遊ぼっかなー♡

パッパッ

あへんあへん

「はへ♡おお♡ま、待て♡
堕ちてる♡堕ちてるからあ♡
お前のイケメンチンポにメロメロだから!!」

「我を…我を使ってくれ♡
無能な雑魚チン指揮官なんてえ♡
もうどうなってもいいから♡♡」

ズーッ

ズーッ

「あ…指揮官…何か用？
私は今、ご主人様と精神訓練の
真っ最中なんだけど♡」

♡♡♡

♡♡♡

「う…♡ふうー♡ふー♡はあ♡はあ♡
おちんぼ様の香りと熱を感じる♡」

「…？ どんな訓練かって？
どうして指揮官に教えないといけないの？」

「早く精神訓練の続きをしたいから…出ていってもらえる…？」



「おおん♥あ♥あッ♥うおお♥♥」

「しゅごおいしい♥指揮官じゃあ♥んんッ♥
突けなかった弱点狙い撃ちい♥」

「もうご主人様への気持ちで
頭いっばいだよお♥」

ビクッ

ビクッ
ビクッ

「もっと私を勝って♥
罵って♥支配してえ♥」

「ゴミ指揮官のヘタクソ調教された身体を
ご主人様のつよつよ調教で上書きしてえ♥」

ズンッ

ズンッ

ズンッ

はい

「えへへ…♥最高お♥
もうご主人様無しじゃあ
生きていけないよお♥」
「これからもお♥私でえ♥
沢山遊んでくださいい♥
えへへ♥♥」

ビクッ

ビクッ



シェルブール

「……つまんな」

「指揮官として無能なのは構わないけど
せめて私を退屈させないでほしいわ……」

「まったく、こんなゴミ雄に夢中にな
っていたなんて……どうかしてたわ」

「さあて♥こっちの新しい指揮官は
中々いいモノ持つてるみたいだけど♥
私を楽しませてくれるのかしらあ♪」

「クッッッ」

「クッッッ」

「クッッッ」

「クッッッ」

「クッッッ」

「クッッッ」

「ゴゴゴ」



「ああああん♡すっごおい♡
お♡おう♡んおお♡
屈しちゃう♡このおチンポに
支配されちゃう♡♡」

「生意気言っでごめんなさい♡
もうあなたのチンポにい♡
ドハマリしちゃったわ♡」

「退屈な粗チンマゾ男なんてどうなってもいい♡
私をあなた様のケッコン艦にしてえ♡」

ズン
ズン

パ
ン

奥
イ
グ

あ
あ
あ

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

「フフ♥おまたせ♥
いい子にしてたかしら♥
元指揮官くん♥」

「あなたの期待通り、さっきまで
ご主人様とパコってたわ♥
本当は中断なんてしたくなかったのだけど
ご主人様の命令だから仕方なく…ね♥」

【フランクリンと元指揮官くんの寝取られマゾ日誌】…♥
「今日で完成しちゃうわね♥」

「完成したらどうなるのかって？
もちろんあなたに会うことは無くなるわ♥」

「当たり前でしょう？寝取られマゾを虐めるの飽きちゃったし♥
そもそもご主人様の命令で相手してあげてただけなのよ♥」

「それじゃあ♥情けなくくお漏らしして♥お別れしましょう♥」



「ほくら指揮官♥頑張って♥
ぴゅっぴゅっぴゅっ……♥」

「はあい♥よくできました♥」

「指揮官をマゾ射精させた数だけ
ご主人様に生ハメ交尾して
いただけるんですから♥
あと10回は出してもらわないと♥」

「何にもできない役立たずでも
マゾ射精だけはできるんですから♥
頑張っ……っばい♥
寝取られマゾ射精しましょうね♥」

おほっ

「……いくら寝取られマゾだからって
触ってないのにイクって……」

「いや、そのゴミみたいなチンコ
触りたくねえからいいけどさ……」

「こんなのに一時でも惚れて
ケッコンしてたと思うと
アタシのプライドに
傷がつくっていうか……」

「まあいいや、さっさと
出せるだけ出しちまえよ♥
こっちは早くご主人様のチンポほしくて
マンコムラついてんだからさ♥」

グハッ

グハッ

ワシントン

ノースカロライナ

へへッ♪捕まえたぜえスパイさん♡
抵抗しても無駄だぜ♪

「……ッ」

（こちらの情報が漏れていた？
しかしこの作戦は、上層部と指揮官しか
知らない極秘任務のはず…
まさか上層部に裏切者が？）

こいつ最新鋭の開発艦じゃあねえか♪
尋問して情報吐かせたあとは、
俺たちの肉便器艦に、再開発♡してやるよ♡

たぐっ

ばるっ♡

まずはこのデカパイから翫ってやるかな♡
（特殊な装置の影響か身体がうまく動きません…
ですが、この男たち…隙だらけで明らかに素人ですね）
登ましたその顔を、すぐにドスケベな雌顔に墮としてやるよ♡
「どうぞ、ご勝手に…」
（隙を見て脱出し、指揮官に報告しなくては…）

ふんっ

たぐっ



「も、もうやめへ…吐きますッ
情報全部吐きますからあ♥♥」

あゝダメダメ♪
本当はまだまだ余裕なんでしょう？
これからが本番だから、気合入れて耐えてね♥

「無理ムリムリむりい♥ぎもぢいいい♥♥
おがじくなるううう♥♥
指揮官んんう♥し、しんぢやうっ♥ぢぬう♥
もお無理い♥助け…ッオオオオオオオ♥♥♥」



「ハ…ハ…♥」
ふうーお疲れえい♪
情報は全部吐かせたし
今日はこんなもんか…♥

明日から本格調教開始♥
俺たちに忠実な雌犬に仕上げて、
大好きな指揮官くんの所に送り返してあげるからね♥



奥付

- | | |
|-------|--------------------------|
| ●タイトル | ネトーラレーン Vol.6 |
| ●発効日 | 2026年8月16日(コミックマーケット108) |
| ●発行 | へんたいゑむぶれむ |
| ●著者 | OKASIRA |
| ●印刷 | プリンティングイン株式会社 |
| ●連絡先 | y_mukurro@yahoo.co.jp |

無断転載及び複製、アップロードを禁止します。

